

大学生による岡山の子どもたちを対象とした防災教育

岡山大学被災地支援団体おかやまバトン

活動の目的

子どもたちが楽しみながら防災について学び、考える場を設けることで防災について自分なりの考えを持つことができ、そのうえでいざというときに自分の命を守るための行動をとることができるようにする。また、西日本豪雨災害から一年が経った今、岡山の大学生が岡山の小学生を対象に防災教室を開催することで、参加者のみでなく地域の防災への関心も高める。

活動の内容及び経過

- ・地域イベントでの防災ブースの企画

非常持ち出し袋の中身についてカードを用いて考えるワークショップや、防災紙芝居の読み聞かせなど。

- ・「令和最強！防災リーダー育成教室」の開催

BRANCH 北長瀬内にあるコミュニティスペースHASHTAGにて、小学4～6年生12名を対象とする防災教室を開催した。SNSでの広報に加え、岡山市の後援を受け近隣の小学校・公民館にてチラシの掲示・配布を行った。イベントのプログラムとしては、大きく「紙食器づくり」「防災クッキング」「防災ゲーム」「防災ビンゴ」の4つのパートを設け、一日を通して参加者が楽しみながら防災について学んだり、防災について考えたりできるように工夫した。

「紙食器づくり」では、災害発生時に新聞紙など身の回りの物を使って、食器がないときに代用ができるということ子どもたちに伝えた。「防災クッキング」では、非常食体験としてアルファ米とレトルトカレーを用いたカレーライスと、缶詰のフルーツを盛り合わせたフルーツポンチを提供した。また、併せて、缶詰など日ごろの食材としても使える非常食やカンパンなどのおなじみの非常食、20年以上保存可能な最新の非常食の紹介も行った。「防災ゲーム」では、市販されている『防災トランプ』と『GURAGURA TOWN（防災すごろく）』の体験を通して、子どもたち自身が防災について考え、自分の意見を述べることでできていた。「防災ビンゴ」ではまず、子どもたち自身に防災グッズリストからアイテムを選んでビンゴカードを作成してもらい、ビンゴの進行をしながらそれぞれの使用方法を紹介した。そして災害時に役立つ防災グッズを賞品とした。また、ビンゴ終了後、作成したビンゴカードは非常持ち出し品リストとして持ち帰り、活用できるようにした。



活動の成果・効果

「令和最強！防災リーダー育成教室」の参加者に実施したアンケートでは、参加者全員が『イベントは楽しかった』『防災について知ることができた』（まあ楽しかった、まあできた含む）と回答していた。また、保護者に実施したアンケートでは、回答者全員が『イベント後、家族で防災について話した』と回答していた。

子どもたちを対象とした防災教室の実施は、楽しく防災について学ぶことができる場の提供と、家庭における防災意識を高める効果が期待できるだろう。

今後の課題と問題点

「令和最強！防災リーダー育成教室」の際に保護者に実施したアンケートでは、57%と半数以上の家庭が『日頃から防災について話していない』と回答していた。

また、地域のイベントに防災ブースを出展した際に行ったアンケートでも、59%（24名）が『家族で震災が起きた際にどのように行動するか話し合ったことがない』、88%（36名）が『自身が避難する避難所に備蓄がどれくらいあるか知らない』、76%（31名）『家に避難用のリュックを用意していない』と回答していたことから、防災に対する人々の意識をより高めていく必要があるということがわかる。

- 代表者：瀧原茉友 ●所在地：岡山市北区津島中
- E-MAIL：okayamabaton@gmail.com
- 設立年：2011年 ●メンバー数：20名